

我在音樂會畫的素描

音楽会で描いたデッサン 陳景容



國家圖書館出版品預行編目(CIP)資料

我在音樂會畫的素描 /陳景容著 ;. - 初版. -臺北市 :

典藏藝術家庭, 2012.9

面 ; 公分. --

ISBN 978-986-6049-23-1 (平裝)

1.藝術 2.文集

907

101011740

我在音樂會畫的素描

作者：陳景容

編輯校對：陳景容、賴文惠

美術設計：憨憨泉設計

行銷企畫：廖珮妊

發行人：簡秀枝

出版部經理：陳柏谷

出版者／典藏藝術家庭股份有限公司

地址／104台北市中山北路一段85號3、6、7樓

電話／886-2-25602220分機300、301

傳真／886-2-25679295

網址／www.artouch.com

戶名／典藏藝術家庭股份有限公司

劃撥帳號／19848605

總經銷：聯豐書報社

地址：103臺北市重慶北路一段83巷43號

印刷：崎威彩藝有限公司

初版：2012年9月

ISBN：978-986-6049-23-1

定價：800元

法律顧問：益思科技法律事務所 劉承慶

版權所有 翻印必究

（若有缺頁、破損請寄回本公司更換）

【典藏推薦】

藝壇巨擘 陳景容

陳景容教授是當代臺灣一位極富才華的藝術家，年近八十歲的他，孜孜不倦地從事藝術創作已超過半個世紀，不論在藝術、學術、社會的回饋和奉獻，均成就斐然。他的熱情與追求藝術境界的完美，加上對社會的回饋與學術上的貢獻，堪稱是國寶級的一代大師。

國立台灣師範大學美術系畢業後赴日留學，畢業於日本武藏野美術大學、東京學藝大學、國立東京藝術大學壁畫研究所。回國後任教於師大美術系研究所名譽教授，兼擔任國立藝專美術系主任。他一生樂於藝術創作與教育，對於提携後進更是不遺餘力，不只本身在國際上享有盛名，更致力將台灣青年畫家推上國際舞台，是文化推展中難能可貴的表率。

陳教授是法國秋季沙龍及獨立沙龍會員，並常於台灣及法國舉辦個人畫展。他是台灣少數同時專精濕壁畫、馬賽克嵌畫、油畫、水彩、素描、版畫等，多種媒材的藝術家，以及國內唯一以古羅馬技法，製作馬賽克鑲嵌畫的大師，更是最早引進繪畫正統修復觀念的專家。尤其值得一提的是，2003年，陳教授曾贈送馬賽克鑲嵌畫《聖家畫》給教宗，並獲得教宗若望保祿二世親自接見祝福。2001年於花蓮門諾醫院揭幕完成的馬賽克鑲嵌壁畫，更代表陳教授關懷本土、寬心仁愛的精神。

他的作品屢獲大獎，如中國畫會金爵獎、吳三連文藝獎、法國藝術家沙龍協會銅牌獎、銀牌獎及榮譽獎、文建會文馨獎等；也獲頒法國秋季和藝術家沙龍永久會員、台北市榮譽市民、師大傑出校友等。2008年，陳教授榮獲中國北京「2008奧林匹克美術大會」特邀入選獎，獲頒該屆奧運聖火火炬、永久典藏證書與金牌獎章。2012年，獲邀參加大同國際壁畫雙年展暨大同國際壁畫論壇，是台灣唯一被邀展的畫家。

陳教授的藝術創作成果斐然，各種媒材包括素描、水彩、粉彩、油畫、壁畫、嵌畫、版畫和彩瓷等，技巧專精，他摒除前衛的時尚，強調自己素描的功力，以傳統的構圖和深沉的色調從事創作，以實現藝術的理想為畢生的心願。在各種形式的媒材當中，教授經常使用素描和版畫來直接表現主題。其內斂深入的作品是國內藝壇中難能可貴的楷模，並獲國際畫壇的肯定。

典藏藝術家 社長



我在音樂會畫的素描

音樂会で描いたデッサン 陳景容

自序一

私はかれこれ15年間、大学の夏休みと冬休みを利用して、パリのアトリエで制作している。なので一年のうち、4ヶ月はパリにいるという計算になる。

たまたま2003年、私がパリのグループ展に出品していた作品が、フランス美術協会会長の目に留まり、2004年ルーヴルのエリゼ宮でのサロンに台湾代表として特別展示する運びになった。そのサロンで私の作品がなかなかの好評を得たので、その次はパリ6区の区役所会場で個展を催すことが出来た。

その個展で渾身の作品群を展示していた折、ある美術館の研究員であるクリストフさんが「これは大家のような立派な作品だ」と評価してくれた。後日その人が私のアトリエを訪れ、私のデッサンと版画に目を付けると、美術専門雑誌の「Art & Métiers du Livre」に掲載したいと申し出てきた。その後手にしたその雑誌には、私の絵の紹介が、ピカソやダダの画家達のデッサン、ルーヴルにある19世紀の画家の作品のデッサンなどと共に掲載されていて驚いた。私の作品は、ヴェルディ作のオペラ《トロヴィアトーレ》の一場面を描いたデッサンが載せられていた。この作品は音楽会を描いたデッサンの中でもかなりの力作と思っていたものだったので、私はこれを見て、なるほど見る目があるなぁと感心した。

ある深夜、台湾の葉方さんから突然電話が入った。その時間、台北では午前中だけれど、パリは夜中である。寝ぼけながら電話に出ると、「先生、今度の国立歴史博物館の個展と同時に、ナショナルコンサートホールの回廊のギャラリーで、音楽会で描いたデッサンの個展をやりましょうよ」と打診してきた。私は突然起こされたこともあり、すぐに「嫌だよ。歴史博物館の個展だけでも忙しすぎて、息をつく暇もないのに。額縁だって今からじゃ間に合わないでしょう？」と、にべもなく断ってしまった。

朝になると、葉方さんからまた電話が入った。今度は「許博允さんにも話したら、非常に面白そうだと言っていましたよ」と言う。それを聞いて、私は「そうですね。ではよく考えておきましょう」と返事をした。許さんは台湾で最初に欧米の演奏家を台湾に招き、台湾のクラシック音楽のレベルアップに、莫大な資産を投じて全力を尽くされた方なのである。

それなら、最近書いた『音楽会で描いたデッサン』というエッセイがあるから、同時に中国語訳して出版したらもっと面白いだろうと考えた。そもそもそれは、私が日本語で書いたエッセイ『落葉集』の一部分として書いたものであったが、もしこの『落葉集』の中に入れてしまったら、挿絵を入れるスペースがあまりないだろうと残念に思っていた。であれば、この機会に『音楽会で描いたデッサン』だけを単行本として出版すれば、思う存分挿絵を入れることが出来ると思ったのである。

「よし決まった」と、展示する腹案を練りながら、スケッチブックや音楽会のパンフレット、紙切れなどがぎっしり入った物置をひっくり返した。すると、この企画にぴったりの良いデッサンが12枚も見つかった。もしこの話がなかったら、永遠にこれらのデッサンを闇の中に葬ってしまっていたかもしれない。

久しぶりのパリでは小雪がちらつき始めていた。今年の冬休み、私はパリで毎日のように未完成の油絵をなんとか仕上げている。何年も描き続けている作品を仕上げるのは厄介なことである。ささやかな欠点でも見つけ出しては小刻みに筆を運ぶというような、気の遠くなる作業が続く。しかし、せっかくこれだけ出来上がったものが、加筆したばかりに失敗するようなこともあるので油断できない。まさに、「薄氷を踏む」ような気持ちで望まなければならないのである。

言い伝えによると、ダ・ヴィンチの作品は製作の途中で筆を置いたものがかな

りあるそうだ。ダ・ヴィンチ曰く、「絵の仕上げは弟子でも出来ることであり、肝要なのは作品の構想である。」私も彼と同じ様な心境で絵を描いているのかもしれない。実際次から次へと新しいイメージが湧き出してくるから、新しい絵を最初は大まかに描きだす時が一番楽しい。どういうものになるかと期待しながら筆を運ぶ面白さは、格別である。実際、作品の最後の段階、絵の仕上げはそんなに面白くないものである。

音楽会で描いたデッサンは、徒然に描いたものというより、イメージを瞬間のうちに捉えた本当に真剣勝負の作品であり、その時の感動と同時に、絵を描く興奮も含まれているのではないかと思う。このようなデッサンのテーマは聞いたことがないので、新しいジャンルになると信じている。

私は今夜、近所のカフェでカフェ・オ・レをすすり、窓の外に舞う雪を眺めながら、この原稿を描いている。ふと、ある日パリのコメディー・フランセーズ劇場で《ねじ回し》のオペレッタを見終わった後、やはりこうしてカフェでカフェ・オ・レをすすっていたのを懐かしく思い出した。

あと一週間後には、台湾に戻ることになる。そうすれば、すぐに大きな個展がある。この夏休み、私は国立師範大学の名誉教授になった。今度の4月の個展では、この名誉職にかけて恥のない展覧会にしたい。期待に胸が膨らむ思いだが、しかし毎日が個展準備で忙殺されることだろう。現在のパリでの、この自由で悠々自適に制作に専念できる環境を心底ありがたく思い、これからも大事にしていきたいと思っている。

ちなみに私は画家であるので、もしかしたらオペラの感想について、何か思い違いをしているところがあるかもしれない。また、日本語も間違いがあるかもしれない。本書の中国語の翻譯は蔡青雯さんをお願いしました。ちなみに中国語の解説は、読みやすいように日本語の意識となっている。間違いについては今

回のところは多めに見て頂きたい。ご指摘いただけたら、再版で訂正したいと思います。とりあえず、画家のたわ言と思っていただければ幸いです。

我

利用大學的暑假和寒假，前往巴黎的畫室作畫，掐指一算也有十五年了。一年之中，約有四個月，我會待在巴黎。

二〇〇三年，參加巴黎的聯展，我的作品獲得法國美術協會會長的青睞，二〇〇四年在羅浮宮的愛麗舍宮中沙龍，代表台灣參加特別展。在沙龍展中，我的作品獲得相當好評，促成後來在巴黎六區的區公所會場舉辦個展。

個展中，展出我的不少嘔心瀝血之作，有位美術館研究員克利斯多福稱讚「真是非常傑出，簡直是大師的作品。」後來，這位研究員造訪我的畫室，注意到我的素描和版畫，向我提出請求，希望刊載在美術專業雜誌《Art & Métiers du Livre》。後來，雜誌寄達我的手中，發現我的畫作介紹竟然和畢卡索、達達主義畫家的素描、羅浮宮中十九世紀畫家作品的素描等列載在雜誌當中，令我震驚不已。在雜誌刊載的畫作中，有一幅描繪歌劇《遊唱詩人》場景的素描。這幅作品在音樂會的素描作品中，我自認為是精心傑作，不禁佩服這位研究員的好眼光。

某日深夜，台灣的葉方小姐來電。當時的時間是台北的早上，卻是巴黎的半夜。我睡眼惺忪地接起電話，對方徵詢我：「老師，在國立歷史博物館舉行個展時，也同時在音樂廳迴廊畫廊中，舉辦音樂會素描的個展吧。」由於半夜突然被吵醒，所以我立刻冷淡拒絕：「不行，光是歷史博物館的展覽就已經分身乏術了。而且，現在開始裝框也來不及啊。」

早上，葉方再度來電。這次他說：「我和許博允先生談過，他認為非常有趣耶。」我聽了之後，答道：「是嗎？那我考慮看看。」許先生是台灣最早引進歐美演奏家的人士，他投注龐大資產，並竭盡全力，以期提升台灣的古典音樂水準。

而且，手邊正好有最近撰寫的《我在音樂會畫的素描》散文，我想，如果能夠翻譯成中文出版，一定更添趣味。這篇原本是我以日文書寫的散文集《落葉集》的一部份，但是插圖不易編入《落葉集》中，正覺得可惜時，如果只出版《我在音樂會畫的素描》單行本，就能夠隨心隨意地編入插圖。

我當下立刻決定，一邊開始思考策劃展覽，一邊翻找塞滿了素描簿、音樂會節目單、小紙張的置物櫃。結果，我發現十二幅完全契合這次企畫的精彩素描。如果沒有這次的提案，這些素描或許將永遠被掩埋在黑暗之中。

巴黎飄著久違的小雪。今年的寒假，我待在巴黎，日以繼夜地趕工完成油畫。完成描繪多年的油畫，實在令人厭煩。每當發現細微缺點時，就得一點一點運筆修補，這項令人頭昏腦脹、考驗耐性的作業不斷持續著。而且，作品已經接近完成，如果因為修正而失敗，就萬事休矣，所以絕對不容大意。我抱著「如履薄冰」的心情面對這道作業。

據說，達文西常在製作的途中，丟開畫筆，說道：「畫作的最後修正，交給弟子就行了。重點是作品的構想。」或許，我也是以同樣的心情在畫畫吧。腦中總是接連不斷地湧出新靈感，最初描繪新作品草圖時，總是最令我開心。一邊期待作品的完成模樣，一邊揮舞著畫筆，那種趣味格外不同。作品在最後完成階段時，其實一點也不有趣。

在音樂會中描繪的作品，相較於隨意畫下的素描，反而是認真捕捉瞬間而描繪的作品，蘊藏著當時的感動和描繪的興奮。我從未聽過類似的畫法，相信這是一個嶄新的領域。

今晚，我在住家附近的咖啡店中啜飲著咖啡歐蕾，一邊眺望著窗外飛舞的白雪，一邊寫著這篇序文。我突然想起，某天我在巴黎的法蘭西喜劇院觀賞完喜歌劇《旋轉螺絲》，也是在咖啡廳中享用咖啡歐蕾。

一個星期之後，我將返回台灣。然後立刻就是大型個展。今年暑假，我成為國立師範大學的名譽教授。在四月的個展中，我希望能夠不辜負名譽教授之名。我滿心期待著，卻又想到每天將為個展準備忙進忙出。現在待在巴黎，能夠自由自在、悠然自得地專心製作，我非常珍惜現在的日子。

我是一位畫家，對於歌劇的感想，或許有誤解之處。至於本書的中文部分則由蔡青雯小姐幫忙翻譯，此外，我的日文也可能有誤。對照日文的中文解說，為了方便讀者閱讀，並非逐字逐句的翻譯，而是採取意譯，若有不適之處，還請各位讀者海涵。歡迎各位讀者的指正，將來再版之時，將參酌更正。不過，懇請各位讀者將本書視為是一位畫家的隨口亂語，則甚幸。

陳 景容

夜、パリのカフェにて
夜晚，寫於巴黎咖啡廳
2006.2.24

自序二

私は今まで、音楽会で描いたデッサンを思い出しながら筆を運んできた。この辺で最後にしようかなという時も幾度もあった。

これは印象深かったものをつれづれに書き続け、出版するチャンスを待っているうちに書き足したもので、特に計画的なものではなかった。

2006年に書いたはしがきから3年余り経った2009年に、このエッセイ集が台北のナショナルコンサートホールの出版社から出版することになり、これまでの音楽会でのプログラムや、ノートブック、スケッチブックなどを整理していると、続々と良い作品が出てきた。よくこれだけ聴いた、描いたものだと思っても専ら感心した。これらはこれまでの50年間の作品だから、量的にはかなりある。出版までの時間があまりないので、いちいち文字を新たに綴る余裕がないのは分かっているが、膨大な量のデッサンを見ながら説明リストを新たに書き足したいと考えている。プログラムを整理している時、印象深かった音楽会は鮮明に思い浮かんでくる。一方で、おぼろげに思い浮かぶものもある。そして、こんな音楽会も行ってきたのかというような印象のものもある。であるから、リストを整理しながら、今回は印象に深く留まっているものや、詳しく感じたことを書いた。

この頃、私がこの本を出版する予定があるという風の便りがあるようで、よく演奏家の方々、或は音楽愛好家の方々からコンサートの入場券が送られてくる。その都度、コンサートへ行って描いてくる。

台湾ではかなり描いたが、いくら探しても見つからない作品もある。この本に入れたものは、ちょうど聴きに行き描いていたのを入れたのみである。良かった音楽会や普段よく知っている演奏家が、この本の中に入っていない場合もかなりあ

る。また、外国に行っている間にいい音楽会を聴きに行けないこともある。こういうことを考えていると、この本の中に入っていない方に申し訳ないと思う。

また、デッサンを描き終えた後、すぐに演奏者の方にあげてしまって手元にならないものもある。もし手元に私のデッサンがあれば、写真でも撮って送ってほしいと思っている。

音楽会では、長い間会わなかった友人達に会えたりする。学生達のほかに、上流階級のような身なりをした人がよく集まっているので、ここに形成された社会は思ったより、知識階級の人達の集まりのようにも感じられる。いかにも上品なブルジョワといった方が集まり、みな幸せそうな顔している。しかしどの音楽会へ行ってもスケッチブックを持って描いているのは、ただ我輩のみである。

いつか長年音楽会で描いたデッサンを一つのテーマとして展覧会をやりたいと思っており、いつかそういう日も来るであろうと信じている。音楽会で描いたものは私の独自ジャンルの一つで、すでに私の画集にはこういう作品もいくつか入れている。そうしてこのたぐいの作品を眺めていると、その音楽を聴いていた頃の自分の生活を色々と思い出す。楽しかったこともあり、寂しかったこともあった。まるで自分の人生の一コマ、一コマを見ているようで面白い。

とにかく今回は急遽出版する運びとなったので、今回書ききれなかった音楽会、プログラムについてはPart II にて書こうと思っている。

この4年の間、出版するまでに中国語訳は台湾人の蔡青雯さんに依頼し、日本語のチェックは主に岩崎友里子さんの協力を得た。

何しろ日本語は私にとって外国語なので、完璧に書くことは無理があると思う。そして私は絵描きなので、音楽はまた別の分野のことであり、もし何か思い当たる箇所があれば、ご指摘頂きたいと思う。

我

一邊著回想在音樂會中描繪的素描，一邊撰寫，曾有數度覺得應該就此停筆了。

這些文字都只是在閒暇之際，陸續寫下印象深刻的回憶；在等待出版機會中，不斷添加，其實原本並沒有任何的規劃。

二〇〇六年寫下的序文，經過了三年多，二〇〇九年，這本散文集將由台北的國家音樂廳所屬出版社發行，我整理以往音樂會的節目單、筆記本、素描本等，陸續出現不少精彩的作品。自己都不禁佩服自己竟然聽了這麼多，畫了這麼多。這些都是累積了五十年的作品，數量龐大。在出版前夕，雖然我明白已經沒有時間餘力重新補綴每篇文章，但是我仍舊打算依照數量龐大的素描，添加補足新的說明。在整理音樂會節目單之際，印象深刻的音樂會鮮明浮現；不過，也有模糊不清的記憶；當然也有「我竟然觀賞了這種音樂會」的記憶。所以，這次，我一邊整理，一邊詳細寫下印象深刻的回憶。

最近，本書即將出版的消息似乎傳了開來，經常有演奏家或音樂愛好者贈送入場券給我。每當我前往聆聽時，我仍舊是邊聽邊畫。

我在台灣時描繪了不少作品，卻有些總是遍尋不著。所以本書只收錄我曾親自前去聆聽並繪製的作品；有些精彩的音樂會或廣為人知的演奏家，很多未收錄在本書中；或是剛好我人身在海外而無法前往。如此一來，對於未能收錄本書的部分，實在覺得心有愧疚。

還有些素描是在畫完之後，立刻當場送給演奏家，未留在自己的手邊。真希望這些持有我的作品的人，能夠拍照寄送給我。

演奏會中，有時會偶遇多年不見的好友。除了學生之外，還有打扮高雅的觀眾聚集而來，形成知識階層聚集的氛圍，又像是氣質高雅甚有品味的中產階級。參與其中的觀眾，臉上都洋溢著幸福與知性。不過，只有我帶著素描本。

我希望有一天能夠以這些音樂會素描為主題舉辦展覽會，我相信這天必定會來臨。在音樂會上描繪的作品是我個人獨特的畫風，一些作品已經編入畫冊當中。觀賞這些作品，總能回想起聆聽這些音樂時，發生在自己身上的各種狀況，有悲有喜，彷彿在觀賞著自己人生的各個畫面，十分有趣。

總之，這次付梓出版的決定倉促，無緣收錄的音樂會或節目單，我決定留待下次分享。

在出版前的這四年之間，感謝協助中文翻譯的台灣人蔡青雯小姐，以及日文確認的日本人岩崎友里子小姐。

日文對我而言，畢竟是外文，無法完美靈活運用；而且我是一個畫家，音樂是另一個不同領域，若各位讀者有任何想法，懇請賜教。

陳 景容

台北のアトリエにて
寫於台北的畫室
2010.10.20

目錄

CONTENTS

- 自序一 2
- 自序二 8
- 1 序曲 14
- 2 阿依達 20
- 3 難忘的托斯卡 23
- 4 魔彈射手 27
- 5 卡門 31
- 6 伍采克 39
- 7 再次欣賞《阿依達》 44
- 8 波西米亞人 46
- 9 風流寡婦 50
- 10 弄臣 52
- 11 霍夫曼的故事 60
- 12 魔笛 65
- 13 獨奏家 75
- 14 國家音樂廳濕壁畫 82
- 15 教堂音樂－俄羅斯合唱團 88
- 16 羅斯托波維奇及黎奇 94
- 17 再次欣賞《唐·喬凡尼》 98

- 18 在教堂欣賞音樂 102
- 19 韋瓦第的榮耀頌 107
- 20 不列頓的歌劇—旋轉螺絲 111
- 21 寫實主義的歌劇 119
- 22 義大利歌劇 124
- 23 歌劇花絮 126
- 24 法國巴洛克四重奏 135
- 25 八月雪 139
- 26 拉美默的露琪亞 146
- 27 台灣交響樂之父—蕭茲 150
- 28 管樂指揮家與獨奏家 157
- 29 新秀演奏會 162
- 30 女高音諾曼 165
- 31 女高音芙蕾妮 168
- 32 男高音里契特拉及女高音韓翠斯 169
- 33 女高音李靜美 172
- 34 捷克國家合唱團 174
- 35 國王歌手 176
- 36 法國鋼琴大賽得主 179
- 37 皮影戲與韋瓦第的四季 180
- 38 阿班貝爾格四重奏 183
- 39 盧家雙姝 187
- 40 次女高音王郁馨 190
- 41 馬勒的《大地之歌》 192
- 42 小提琴家神尾真由子與
鋼琴家上原彩子 196
- 43 印度、埃及與烏克蘭音樂 200
- 44 巴黎索邦大學的音樂會與
街頭音樂家 205
- 45 馬賽克壁畫的習作 209
- 46 吉他演奏者Sangeet 213
- 47 師大學生演奏會 217
- 48 漂泊的荷蘭人 227
- 49 藍鬍子公爵的城堡 233
- 50 節目單 239
作品很好，
但是忘了什麼時候畫的。 260
- 51 音樂欣賞樂趣無窮 269
- 後記 271

このエッセイのタイトルを見ると、皆さんはきっと不思議に思うだろう。音楽会は音楽を聴くところであり、絵を描くところではないからだ。第一、音楽を演奏している最中、ホール内は薄暗くスケッチブックなどよく見えないし、静かに耳を傾ける場所で絵などが描けるはずがない。ところが、今まで私は音楽会でかなりの数のデッサンを描いてきた。それはどういう事であろう。たとえ闇の中でも、私達は字を書こうと思えば書くことができるし、ある程度のデッサン力を持っていれば絵を描くことも可能であると思う。熟練した絵描きならば、最初は難しいが、描いてみれば描けるものだ。レオナルド・ダ・ヴィンチは、よくマントの下にスケッチブックを忍ばせて似顔絵を描き、周囲をびっくりさせたという言い伝えもある。

1952年、私がまだ台湾の師範大学一年生の頃、師範大学の講堂で、音楽科の学生がピアノ演奏しているところをザラ紙にフィザンで描いたのが、記念すべき最初の音楽会でのデッサンだ。多分それは2分間のうちにさらっと描き終えた。今から数えてみると、50年以上も前のものだ。

各

位讀者看到這篇散文的題目時，一定會覺得難以理解吧。本來，音樂會是欣賞音樂的地方，怎麼可能畫素描呢。首先，演奏中，燈光昏暗，視線不清；而且音樂會應該是凝神側耳聆聽，不是適合繪畫的地方。可是，至今我已經畫了相當多幅音樂會的情景。我究竟是如何辦到的呢？請各位讀者仔細想想，如果我們想要摸黑寫字，其實並非不可能的事；若有一定程度素描功力的話，就能夠辦得到。凡事起頭難，但是只要有心嘗試，絕非不可能，只要是技巧熟練的畫家，應該能夠達成。據說，達文西¹也經常把素描簿放在斗篷裡，偷偷地繪製肖像，讓眾人大為吃驚。

一九五二年，當我還是台灣師範大學一年級學生時，在模造紙上以炭條描繪音